

## 地域連携型授業に参加する学生の社会人基礎力の把握

### Understanding the fundamental power of social workers of students participating in community collaborative classes

川田 博美  
Hiromi KAWADA

名古屋女子大学短期大学部  
College of Nagoya Women's University

**あらまし：**中央教育審議会の「青少年の奉仕活動・体験活動の推進方策等について」の答申によると、奉仕活動・体験活動を推進する意義として「①社会人に移行する時期に、地域や社会の構成員としての自覚や良き市民としての自覚を、実社会における経験を通して確認することができる。②青年期の比較的自由にまとまった時間を活用して、例えば、長期間の奉仕活動等に取り組んだり、職業経験を積んで再度大学等に入り直したりなど、実体験によって現実社会の課題に触れ視野を広げ今後の自分の生き方を切り開く力を身に付けることができる。」と指摘し、特に短期大学などにおいては、「学生が行うボランティア活動等を積極的に奨励するため、正規の教育活動として、ボランティア講座やサービスラーニング科目、NPOに関する専門科目等の開設やインターンシップを含め、学生の自主的なボランティア活動等の単位認定等を積極的に進めることが適当である。」としている<sup>(1)</sup>。そこでビジネス系短大生を対象とした「地域連携型授業」の導入により「社会人基礎力」育成のためのプログラムの展開実験を進めてきた。2013年度より学科単位で必修履修とすることになったことを受けて、複数のテーマに分散させることを目的として、「社会人基礎力」の項目により決めた「選択パターン」を設定したうえでの運用を開始した。さらに、2014年度からは、学びの場としての『街なか・サテライト(アクティブ・キャンパス)』を学外などにも求め本学科各コース専修者としてふさわしい専門性の保証と学生個人の能力アップを目指した『生活学科アクティブラーニングプロジェクト』を展開し始めた<sup>(1)~(6)</sup>。本プログラムの目標は「社会人基礎力」の育成である。その成果を見極めるためにプログラムを開始する前の履修者の社会人基礎力の実態を把握した。

**キーワード：**短大教育、協働型サービスラーニング、社会人基礎力育成、地域連携型授業

#### 1. はじめに

教科『地域貢献演習(入門・基礎・実践・応用)』は、短期大学での正課の授業として「社会人基礎力」を育むための実践的な取り組みにリンクした形で2013年度よりの新カリキュラムで設定したものである。1年次の2セメスタは必修科目として短期大学部生活学科(情報ビジネスコース、フードマネジメントコース、ファッションデザインコース)の全学生が全員履修する(定員100名)。

教科『地域貢献演習』を「協働型サービスラーニング」の場としていく目的と期待されるその効果としては、

(1) 短大の1、2年生を対象に実施することで、学生一人ひとりが自らにとって将来必要な学習の意味を確認し、地域や社会問題への関心を広げ、グループでの協同学習で基礎的な力をつける。

(2) 実践的な情報技術教育への導入教育としてモチベーションを高めるとともに、IT環境への理解を深め、より実践力の高い専門職養成を図る。

(3) 大学と地域団体との連携によるコミュニケーション教育プラットフォームを構築することで、効果的な協働型サービスラーニングのプログラム開発および評価体制を構築する、ことなどがある<sup>(2)</sup>。

学生は入学後まもなく行われる「地域貢献演習」のガイダンスへの参加を経て11種類のプロジェクトの中から1つを選択し、1年間その授業に参加する。2018年度入学生115名に対し「社会人基礎力」

の各能力に対する関心度を調査した。

#### 2. 教科『地域貢献演習』の目的は「社会人基礎力」の育成

教科『地域貢献演習』の目的は、「社会人基礎力」の育成である。それを踏まえて、2013年度からは、「社会人基礎力」をもとにした3つの選択パターンを設定し、運用を開始した。学生に選択を促した3つのプロジェクトは

①前に踏み出す力(アクション)を育むことを目標とする「セルフ・セレクト・プロジェクト」(地域貢献活動参加型サービスラーニング)

②考え抜く力(シンキング)を育むことを目標とする「オリジナル・プランニング・プロジェクト」(教員協働型サービスラーニング)

③チームで働く力(チームワーク)を育むことを目標とする「春待ち小町プロジェクト」(地域団体協働型サービスラーニング)である。

③のプロジェクトでは、発信力、傾聴力、柔軟性、状況把握力、規律性、ストレスコントロール力といった、「チームで働く力」を身に付けさせ、評価は、協働する地域団体が行う。「春待ち小町プロジェクト」で習得を目指す社会人基礎力の「チームで働く力」(チームワーク)(多様な人とともに、目標に向けて協力する力)は、職場や地域社会等では、仕事の専門化や細分化が進展しており、個人として、また組織としての付加価値を創り出すためには、多様な人

との協働が求められ、自分の意見を的確に伝え、意見や立場の異なるメンバーも尊重した上で、目標に向けともに協力することが必要である、ということから、次の6つの能力要素が設定された<sup>(3)</sup>。

- (1)「発信力」は、自分の意見をわかりやすく伝える力で、自分の意見を整理した上で、相手に理解してもらうように的確に伝える能力である。
- (2)「傾聴力」は、相手の意見を丁寧に聴く力で、相手の話しやすい環境をつくり、適切なタイミングで質問するなど相手の意見を引き出す能力である。
- (3)「柔軟性」は、意見の違いや立場の違いを理解する力で、自分のルールややり方に固執するのではなく、相手の意見や立場を尊重し理解する能力である。
- (4)「状況把握力」は、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力で、チームで仕事をするとき、自分がどのような役割を果たすべきかを理解する能力である。
- (5)「規律性」は、社会のルールや人との約束を守る力で、状況に応じて、社会のルールに則って自らの発言や行動を適切に律する能力である。
- (6)「ストレスコントロール力」は、ストレスの発生源に対応する力で、ストレスを感じるがあっても、成長の機会だとポジティブに捉えて肩の力を抜いて対応する能力である。

### 3. 「チームで働く力」に対する状況

調査対象は、「地域貢献演習」を履修予定する1年生115名である。

「チームで働く力」については

「少しあると思う」51%、「あると思う」36%、「あまりないと思う」10%、「全くないと思う」3%

- (1)「発信力」  
全体「あまりないと思う」55%、「少しあると思う」31%、「全くないと思う」11%、「あると思う」3%
  - (2)「傾聴力」  
全体「少しあると思う」58%、「あると思う」21%、「あまりないと思う」18%、「全くないと思う」3%
  - (3)「柔軟性」  
全体「少しあると思う」55%、「あると思う」29%、「あまりないと思う」13%、「全くないと思う」3%
  - (4)「状況把握力」  
全体「少しあると思う」63%、「あると思う」23%、「あまりないと思う」11%、「全くないと思う」3%
  - (5)「規律性」  
全体「少しあると思う」63%、「あると思う」24%、「あまりないと思う」10%、「全くないと思う」3%
  - (6)「ストレスコントロール力」  
全体「少しあると思う」55%、「あると思う」16%、「あまりないと思う」22%、「全くないと思う」7%
- 「チームで働く力」については、13%がない(2017年度8%)と答え、特に弱い能力要素は、「発信力」と「ストレスコントロール力」である。

### 4. おわりに

「チームで働く力」について、身に付けたい能力としては、

「チームで働く力」について

全体「身に付けたい」72%、「少し身に付けたい」28%、「あまり身に付けたくない」0%、「全く身に付けたくない」0%

と意欲はあり、すべての能力要素については全員が「身に付けたい」とし、次のような順となっている。

- ①規律性(80%)
- ②「発信力」(78%)
- ③「ストレスコントロール力」(77%)
- ④「状況把握力」(74%)
- ⑤「柔軟性」(73%)
- ⑥「傾聴力」(66%)

協働団体での主な評価基準は次のとおりである<sup>(3)</sup>。

- (1)「発信力」
  - ・発言する。提案する。説明する。自分の意見。
- (2)「傾聴力」
  - ・人の話を聞く。質問する。改善する。
- (3)「柔軟性」
  - ・会話を続ける。進んで話しかける。落ち着いて行動する。方法の見直し。
- (4)「状況把握力」
  - ・様子を見て話しかける。素早く対応する。状況を見ながらの行動。状況説明。
- (5)「規律性」
  - ・敬語が使える。話し方のマナー。報告や連絡をする。ルールを守る。
- (6)「ストレスコントロール力」
  - ・やり遂げる。再チャレンジ。くじけない。相談する。

調査結果に基づき各個人が身に付けたい能力要素を身に付けることができるよう授業展開していく必要がある。また、学生が「社会人基礎力」を発揮できる場面や環境を提供する必要がある。

#### 参考文献

- (1) 中央教育審議会(2012):『新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～(答申)』、2012年8月28日、文部科学省
- (2) 川田博美、稲吉由味子、千葉みどり(2015):“「社会人基礎力」育成のための「協働型サービスマネジメント」の実践”、教育システム情報学会第40回全国大会講演論文集
- (3) 川田博美(2016):“地域団体と連携して行う街なかキャンパスでの評価”、教育システム情報学会第41回全国大会講演論文集
- (4) 川田博美(2016):“アクティブ・ラーニングプログラムとして実践する地域貢献演習の展開”、教育システム情報学会第41回全国大会講演論文集
- (5) 川田博美(2017):“地域連携型授業でめざす社会人基礎力育成”、教育システム情報学会第42回全国大会講演論文集
- (6) 川田博美(2017):“実務教育プログラムにおける質保証の検討”、教育システム情報学会第42回全国大会講演論文集